

ABARTH500/595/695 Tune Up Guide Book

アバルト

チューンアップ
ガイドブック



ダンパー大研究

ECUチューンの現状を知る
ブレーキパッドの粉末成分を知る

減衰力を生み出すキーテクノロジーは
ピストンの穴形状と
シムバルブ



「ERGOSTER NUGRAIN」に使われる「ヌグレ」は、手触りが良く汚れにも強い「アキレス」が開発した合成皮革だ。リアシートのヌグレへの張り替えは「A PIT FACTORY」のみのサービスとなる。



A PIT PERFORMANCE FACTORY URL:<https://www.apit-autobacs.com/shinkiba/>

職人技と

“ヌグレ”

という新素材が創り出す

新しい感触とホールド性

モータースポーツで培った経験を基に高性能・高品質なスポーツシートを開発製造する日本のメーカー「BRIDE」が、新素材「ヌグレ」を使った「ERGOSTER NUGRAIN」と同素材でのリアシートの張り替えをアバウトユーザーに提案する。

内装にこだわるアバウトオーナーに朗報

シートはドライバーの体がもっとも接触するパーツであり、アバウトユーザーでも交換したいという人が少なくないはずだ。スポーツシートメーカーである「BRIDE」では、さまざまなタイプのシートが用意されているのはもちろん、車種ごとに専用のシートレールが用意されており、基本的に車検にも対応している。ただ、BRIDEのシートは国産車で使用されているイメージが強く、外国車に使用されるイメージはあまりない。

そんなBRIDEがアバウトに目をつけた理由は、走行会などサーキットで見かけることが多いため、スポーツシートのニーズがある

のではないかとのこと。そして、もうひとつは奥さんなど家族連れの方も多く、1台のクルマでスポーツ走行から普段乗りまでという使い方をされていることだった。そこで「スポーツ走行から普段使いまでいい感じのシート」ということで、オールラウンドの「ERGOSTER」をベースにヌバック調の新素材「ヌグレ」を使用したコンフォートリクライニングシート「ERGOSTER NUGRAIN」を提案。このERGOSTERシリーズは肩部分の張り出しが少なく、アバウトのような車内のスペースに余裕のない車体にも違和感なくフィットする。座面も薄く設計され、アバウト595の純正シート最下点から10mm程度

着座位置が下がり、スポーツ走行を楽しめ、ドライブでも疲れにくいポジションを生み出しているという。

さらに、アバウトチューニングに力を入れる、「A PIT PERFORMANCE FACTORY」においてリアシートをフロントとまったく同じヌグレ生地で張り替えるサービスが始まった。通常リアシート張り替えはフルバケットシートの定番生地のみで、BRIDEで預かっての施工となるが、ヌグレ生地の張り替えについては施工を含め同店だけとなる。フロントとリアのシート生地を揃えることができるこのサービスは、内装にこだわるアバウトオーナーにとって見逃せない。



「THE TAKUMI LOUNGE by BRIDE」を掲げる「A PIT PERFORMANCE FACTORY」

「A PIT PERFORMANCE FACTORY」は、BRIDE シートの専門店である「THE TAKUMI LOUNGE by BRIDE」の看板をかかげており、シート選びから取付けまで最適なサービスを提供している。「BRIDE」とそのアッパーラインとなる「edirb」のシートのほとんどを展示しており、実際に座って試すことも可

能だ。シートの取付けに関しては仮付け状態で一度走ってみてから、微調整を行うという徹底したこだわりをみせる。同店のデモカーであるアバルト 595 にも「ERGOSTER NUGRAIN」が取付けられているが、フロント側を少し上げてセットすることで着座位置を安定させている。アバルトはこだわりの強いオーナー

の多いクルマであり、カスタムやチューニングに使用するパーツや取付け方にも当然こだわる人が多いはずなので、「BRIDE」のシートの装着を考えているのであれば、専門店である同店に一度相談してみるべきだろう。



リアシートはノーマルをベースにヘッドレストまでヌグレで張り替えられており、その仕上がりの美しさは純正と見まごうばかりだ。アバルト 595 のリアシートは、座面と背もたれが別々に固定されている。座面部分は前側から 2 本のボルトで固定されており、このボルトを抜くだけで外せる。背もたれは後ろ側が左右 2 本ずつのボルトで固定され、前側はセンター 1 箇所と左右のベルトバックルの部分で固定されている。バックルからは配線が出ており、この配線を繋ぐカプラーも外しておくこと。背もたれは大きいため、車外に取り出す際は斜めにする必要がある。その際には内装やシートを傷つけないように注意が必要だ。背もたれは左右に分割されているが、下の部分はシャフトで繋がれているため、外す時は両側一緒に外す必要がある。この左右を繋いでいるシャフトは張り替え時に取り外すことになる。取付けの際は仮締めした状態で穴位置を調整しつつ取り付ける必要がある。